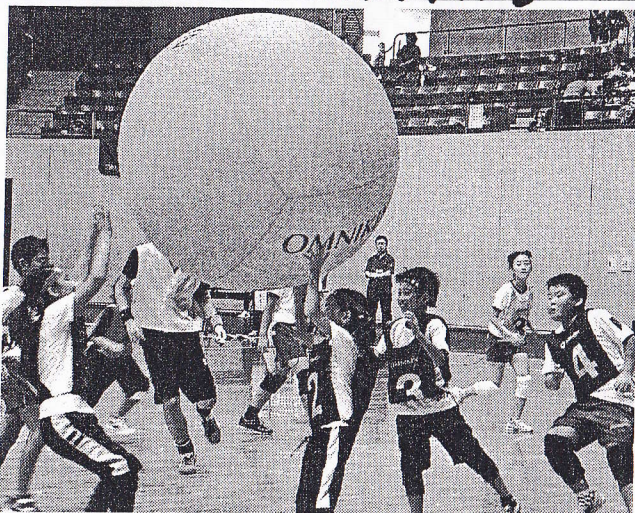


巨大ボール追い掛け笑顔

盛岡でキンボール全国大会 児童ら550人熱戦

ニュースポーツの一つ、キンボールの全国大会「第13回ジャパンオープン・フレンドリーカップ」(日本キンボールスポーツ連盟主催)は15日、盛岡市本宮の市アイスアリーナで始まった。子どもから大人まで幅広い年代の選手が直径122センチの大きなボールを追いついて、コート狭しと走り回っている。

キンボールは1チーム4人。3チーム同時にプレーし、ヒットとレシーブを繰り返して得点を競う。県内初開催となる今大会は全国への感謝を込め「復興支援」がとつ大会」と銘打ち、北海道から沖縄まで全国103チーム、約550人が熱戦を繰り広げている。初日は交流を主としたフレンドリーの部で



直径122センチのボールを追いついて、コートを走り回す子どもたち

代などの支援を受け、4チームを編成。わずか1カ月の練習で本番を迎えたが、はつらつとボールを追いついた。

仮設住宅で暮らす長谷川鈴乃さん(5年)は「みんなで力を合わせるのが楽しい。練習よりうまくできた」と笑顔で汗を拭いた。

最終日の16日は、競技性の高いチャンピオン部が行われる。

町彩る豪華

軽米町の軽米秋まつり(同実行委主催)は15日、町中心部で開幕した。17日までの3日間、豪華絢爛な山車の運行や流し踊りなど多彩な催しが繰り広げられ、大勢の町民が秋を告げる一大イベントを楽しんでいる。

同日は、みこし渡御行列と山車6台が軽米八幡宮を出発し、町中心部約2キロを運行。大勢の観客が沿道で見守る中、子どもたちの元気な掛け声と、にぎやかな祭りばやしを響かせながら商店街を練り

◆本県でキンボール全国大会

「第13回キンボールスポーツジャパンオープン・フレンドリーカップ」は15、16の両日、盛岡市アイスアリーナで行われる。宮城県以北では初の開催で、児童から大人まで幅広い世代が熱戦を繰り広げる。キンボールは1チーム4人で構成し、3チームで試合を行う。約20四方のコートで直径122センチ、重さ1キロのビニール製ボールを使用する。ヒット(サーブ)権を得たチームはレシーブチームの色を指定してからボールを1・8メートル以上飛ばし、レシーブチームは床に落ちる前に拾わなければならない。拾えばヒット権が移り、ヒットとレシーブを繰り返す。失敗すると2チームに得点が入り、合計得点を争う。ボールが大きいいため1人では支えきれず、チームワークが重要となる。

大会は15日にフレンドリーの部(65チーム)、16日にチャンピオンの部(38チーム)の予選、決勝をそれぞれ行う。本県からは金石市や大船渡市のほか、盛岡市や二戸市などから約30チームが出場する。

事前・岩手日報